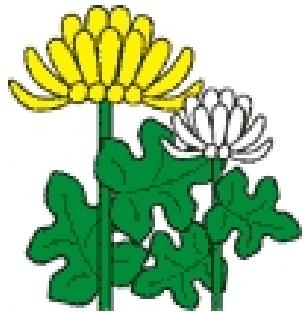


明徳寺報

2024年8月1日
第596号
発行
住職 秦 信明
長浜市木之本町黒田

お墓まいり 8月12日(月) 午前5時半



お勤めは、仏説阿弥陀経と正信偈です 法話一住職

* 「志」はお焼香台の横の箱にお入れください
【お盆の準備】

* すす払い 8月4日(日)午前8時

当番—7組・1組・2組の皆さん

* 磨きもの 8月4日(日)午後1時

責任役員・総代・世話方・女性部役員

✿ 「マスクの着用」は各自の判断でお願いします

他所門徒「お墓まいり」

坂口・木之本・西山・高月等の他所門徒の「お墓まいり」は、8月12日午後1時から勤めます。「お斎」はありませんのでご了承ください。

「お墓まいり」の意味

「真宗門徒は、お盆といつても特別なことはしないんですね」と、よく言われることがあります。特に黒田は3ヶ寺あり、明徳寺以外は精霊棚や迎え火・送り火といったことをされますが、真宗ではご先祖のために特別の施設をこしらえたり、特別の儀式のようなものを執り行わないからそのように言われるのでしょう。もちろん、位牌を立て、靈供養といった先祖のためにごちそうを出したり、季節の野菜などをお供えすることも致しません。

お盆に先祖の靈魂が一時帰省するという考えは、我が国固有の民俗信仰に基づいたもので、本来の仏教の教えとはかなり異質なものです。靈魂が憑りついたり離れたり、あっちに行ったりこっちに行ったりするような考えはおよそ私たち真宗門徒にはなじみません。

「お盆」は、いわれ（盂蘭盆經という經典に説かれた物語に基づいて営まれる仏事）にちなんで、ご先祖を敬い、こうしたご先祖や亡き人が喜んでこられたお念佛のいわれを、お盆を機縁としてたずね、聞法させていただくことが大切といえます。それが真宗門徒の「お盆」の迎え方だと思います。早朝ですが、ご家族お誘い合わせてお参りくださるようご案内申し上げます

明徳寺ホームページ <http://myoutokuji.main.jp>



日曜学校「夏のつどい」

7月20日（土）から21日（日）にかけて第45回日曜学校「夏のつどい」を開催しました。子ども15人保護者9人が参加してくださいました。

コロナ禍の中でここ数年は1日だけの開催していましたが、4年ぶりに一泊研修として計画しました。保護者の方のご理解とご協力によって無事に楽しく終えることができ感謝しています。

1日目は午後4時に集合し、オリエンテーション、探検ゲーム・宝さがしなどしました。夕事のお勤めをみんなしました。夕食は保護者の方にお手伝いをお願いし、美味しいカレーライスを頂きました。夜は花火大会や肝試しもあり遅くまで歓声が上がっていました。保護者の方にもいろいろ手伝っていただき、泊ってくださった人もいました。

2日目は、午前6時に起床して、ラジオ体操、朝のお勤め、朝食をいただき、宿題、そして、親子で楽しめるゲームやスーパーぼーるすくい、ヨーヨー釣り等で楽しい時間を過ごしました。盛り沢山の内容でしたが、お寺でみんなが楽しく過ごせて、参加者の中には、作文などの夏休みの宿題に、「夏のつどい」のことが書けてよかったですと喜んでいました。午後4時に解散しました。

猛暑の中、熱中症やコロナ感染拡大などの心配もありましたが、無事に終えることができ、ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



8月の「女性のつどい」並びに「紫雲朋の会」は、都合によりお休みさせていただきます。次回は、女性のつどい9月5日（木）、紫雲朋の会9月29日（日）に開催します。いずれも午後7時30分からです。

夕涼み花火大会



日時 8月14日（水）
午後6時30分
会場 明徳寺駐車場

飲み物や、焼きそば、焼き鳥、ワインナートウモロコシ、かき氷など準備しています。また、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣りなども用意をしています。ご家族そろってお越しください。雨天順延。参加無料です。

真宗における「盂蘭盆会」の意味

記 老院

他宗では精霊を迎え、仏壇に蓮の葉を敷き、さまざまな野菜や果物を供える風習がありますが、真宗ではそのようなことをする必要はありません。お盆は、正式には「盂蘭盆会」といわれ、「仏説盂蘭盆経」に出てくる仏弟子目連尊者の物語に由来するといわれています。

目連が神通力を身につけてのち、これまで仏弟子としての成長を見守ってきた母が亡くなり、その恩に報いるためにその姿をたずねると、我鬼道に墮ちて苦しんでいる母を見ることになります。そこで目連は食物を差し出します。しかし、母が手にすると食物は炎と化し食べることができなかったといわれています。自分が母のためにささげたものが、炎となってしまうのを前に、神通力を得ながら母一人を救うことができない深い悲しみのなかで、目連は仏陀に教えを請います。すると仏陀は、目連に対して「汝一人のおよぶところにあらず」とさとし、「衆僧供養」をすすめられ、それによって母も救われるということを説かれました。衆僧とは、すべての人びとを等しくいくしむ、仏陀のこころを生きる人びとです。その人びとを供養することをとおして、私たちが仏陀のこころに生かされていく一人となることです。自分一人の力をたのむならばその願いはまとうすることはできないということ、そして単に自分の身内である親としてではなく、長いいのちの歴史、深いいのちのつながりをこの私にまで伝えていただいた人びとの恩に報いることを教えられました。そこに「汝一人のおよぶところではない」とさとされる仏陀のきびしい眼があります。共に教えに生きるものとなる時はじめて供養となることを伝えているのです。

ちなみに「盂蘭盆会」というのは古代インドの言葉である「ウランバナ」を漢字にあてたもので、「倒懸」と訳し、逆さまに吊るされるような苦しみをあらわしているといわれています。日本では古く「日本書紀」の657年の頃に「盂蘭盆会を設けた」と記されています。歴史が古いだけにこれまでいろいろと民間信仰とも結びつき、また地域によってもさまざまな行事が伝えられてきています。

私たちの長い歴史のいとなみのなかで、死は決して単に死んで終わりということではなく、いつも死者として私たち生者と共にあったのではないでしょうか。亡き人を縁としてはじめて知らされる世界があるのです。生老病死が一人の身の上に起こるひとつの出来事のように考えられていますがそうではなくて人びとの深いいのちのつながりのなかでの出来事であるということ、そのことをあらためて見つめなおし、真宗の教えに遇う法会としてつとめられています。

8月の行事

日	曜日	時 刻	行 事 名
4	日	午前8時	日曜学校
		午前8時	すすはらい 当番 7組・1組・2組
		午後1時	みがきもの 責任役員・総代・世話方・婦人部役員
11	日	午前8時	日曜学校
		午後1時	お墓まいりの準備一責任役員・総代
12	月	午前5時30分	「お墓まいり」
		午後1時	他所門徒「お墓まいり」 *「お斎」はありません
14	水	午後1時	お盆のお勤め
		午後1時	若葉会「夕涼み花火大会」の準備
		午後3時	女性部役員「夕涼み花火大会」のお手伝い
		午後6時30分	「夕涼み花火大会」 会場一明徳寺駐車場
18	日	午前8時	日曜学校
25	日	午前8時	日曜学校
28	水	午前10時	親鸞聖人御命日のつどい
29	木	午後2時	組合唱団「山河サンガ」練習 会場一明徳寺

（五村別院「夏中」のご案内）（午前中）

午前6時（暁天講座）

午前9時（夏の御文拝読・法話）

8月5日(月) 藤本 智氏(湖北町猫口・淨福寺)
 6日(火) 増田和佳子氏(新庄番場町・誓傳寺)
 7日(水) 曽我朋子氏(米原市一色・等倫寺)
 8日(木) 伊吹勇真氏(湖北町河毛・願正寺)

竹中慈祥氏(米原市上多良・真廣寺)
 山田孝夫氏(小谷上山田町・禮信寺)
 伊藤慈成氏(米原市本郷・真入寺)
 笠原俊典氏(八条町・持専寺)

✿お問い合わせは五村別院 ☎ 73-3133まで ✿マスクの着用は各自の判断でお願いします。

葉刈り作業の御礼

役員一同

去る7月7日（日）午前8時より、門徒総出で葉刈り作業をしていただきました。60戸の門徒の

ほとんどが参加してくださり、境内や中庭などきれいにしていただきました。

お世話になりました皆様に御礼申し上げます。

